

横浜市教育委員会  
臨時会会議録

- 1 日 時 令和2年10月16日（金）午前10時00分
- 2 場 所 市庁舎 18階共用会議室（なみき14・15）
- 3 出席者 鯉淵教育長 大場委員 中村委員 森委員 木村委員 四王天委員
- 4 欠席者 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

# 教 育 委 員 会 臨 時 会 議 事 日 程

令和2年10月16日（金）午前10時00分

- 1 会議録の承認
  
- 2 一般報告・その他報告事項  
新型コロナウイルス感染症への対応について  
第2の日本語支援拠点施設「鶴見ひまわり」の開設について
  
- 3 その他

[開会時刻：午前10時00分]

鯉渕教育長

ただいまから、教育委員会臨時会を開会いたします。本日も新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、マスクを着用しております。

初めに、会議録の承認を行います。9月18日の会議録の署名者は、森委員と木村委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉渕教育長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、10月2日の教育委員会定例会の会議録につきましては、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

小椋教育次長

#### 【一般報告】

##### 1 市会関係

○10/13 決算第一特別委員会（採決）

○10/14 本会議（第4日）決算議決

教育次長の小椋です。それでは、報告いたします。

まず、市会関係ですが、10月13日に決算第一特別委員会が開催され、採決が行われました。また、10月14日に本会議4日目が開催され、決算議決が行われました。

##### 2 市教委関係

###### (1) 主な会議等

###### (2) 報告事項

○新型コロナウイルス感染症への対応について

○第2の日本語支援拠点施設「鶴見ひまわり」の開設について

次に、教育委員会関係の主な会議等ですが、こちらは、前回の教育委員会定例会から本日までの報告はございません。

次に、報告事項として、この後、所管課から2点報告させていただきます。まず1点目ですが、「新型コロナウイルス感染症への対応について」、2点目は、「第2の日本語支援拠点施設『鶴見ひまわり』の開設について」、報告させていただきます。

私からの報告は以上です。

鯉渕教育長

報告が終了しましたが、何か御質問等がございますか。特になければ、「新型コロナウイルス感染症への対応について」、所管課から御報告いたします。

直井学校教育  
企画部長

学校教育企画部長の直井でございます。「新型コロナウイルス感染症への対応について」、資料に基づいて御説明したいと思います。お手元の資料を御覧ください。まず初めに「1 学校の様子について」ですが、市立学校の宿泊行事等の実施状況について、9月末時点で調査を実施し、集計結果がまとまりましたので、御報告いたします。

「(1) 小学校6年生 修学旅行」についてですが、左側の2列、実施済み、実施予定は、宿泊を伴う内容となっており、実施済みが18校、実施予定が161校という結果でした。割合といたしましては、全小学校のうち52.5%となっています。3列目から右側は、宿泊はせず日帰りでの実施済み、日帰りで実施予定、又は検討中、あるいは中止を決定した学校です。日帰りで実施済みが3校、日帰りで実施予定が113校、検討中が13校で合わせて37.8%です。一番右側は中止を決定した学校で33校、全体の9.7%という結果でした。

次に「(2) 中学校 3年生修学旅行」についてですが、表の見方は小学校と同じです。宿泊を伴う内容で実施済み、実施予定を合わせた割合は全体の55.8%となっています。また、日帰りで実施済み、日帰りで実施予定、検討中が合わせて11.5%でした。中止を決定した学校は48校で、全体の32.7%でした。

次に「(3) 高等学校」についてですが、左側の実施予定の下段、海外研修を予定していた学校は全て中止し、国内での実施を検討しています。市立学校の宿泊行事のうち、10件は実施予定です。その他の状況については表のとおりとなっています。

次に「(4) 特別支援学校」ですが、宿泊を伴う形で実施を予定しているものとして、高等部で1校、小学部で1校となっています。特別支援学校については、令和3年度に延期という決定をしている学校が、表の右から2列目にありますように、高等部、中学部、小学部でそれぞれ生じています。また、いずれの学部においても、中止を決定している割合の高いことが分かっています。

裏面を御覧ください。「(5) 修学旅行を実施した学校への聞き取り」ですが、先日の第3回市会定例会において、9月補正予算の中で修学旅行等支援事業が議決されましたが、行事の実施に際して看護師の同行に要する費用の公費負担を予定しております。実際に看護師を同行させて実施した学校などから聞き取りを行いましたので、ご紹介します。丸の一つ目ですが、「現地で感染が疑われるケース等への対応自体は生じなかったが、看護師が同行していたことにより、『医薬品の管理』、『アレルギーのある児童への対応』、『鼻血や乗り物酔い児童生徒への対応』等に安心して対応できた」とのことです。丸の二つ目ですが、「一時的に発熱した生徒への対応において、同行した看護師に、現地の医師とともにスムーズに対応してもらった」とのことでした。また、最後の丸の、感染予防のための主な措置内容は、宿泊施設の貸切、または、可能な限り同室人数を抑える。食事は宴会場等の大部屋で、全員が前を向いて、相互の距離を保つ。新幹線車内での対面着席禁止、おやつ交換をしない。1人に1本携帯用の消毒液を携行させる。「GoToキャンペーンの活用により、駅からホテルまでの移動に大型タクシーを利用」などと、様々な措置を講じて慎重に実施しているとのことでした。

私からの説明は以上でございます。

前田人権健康  
教育部長

続きまして、人権健康教育部の前田でございます。「2 教職員・児童生徒の新型コロナウイルス感染状況」でございます。前回の報告以降の教職員の感染者は1名、児童生徒の感染者は14名でございます。なお、令和2年6月1日の学校再開以降、10月14日時点の教職員の感染者は12名、児童生徒の感染者は80名、計

92名となっております。報告は以上でございます。

鯉淵教育長

説明が終了しましたが、何か御意見・御質問等がございますか。

森委員

御報告ありがとうございます。裏面の「(5) 修学旅行を実施した学校への聞き取り」ということで、いろいろな対応を検討されて、先生方はとても大変だったのではないかと思います。同時に、バスで隣同士になった子とおしゃべりしたり、おやつ交換とか、まさにそれを楽しみにしていたみたいなのをやめざるを得ないということで、子供たちは残念な気持ちもありながら、でも一緒に行けたという喜びも、行けた学校についてはあったのではないかと思います。聞いておりました。

修学旅行は、ゼロから企画を毎年練り直してということも大変なので、前年の修学旅行をもとに企画をブラッシュアップしたりということが例年はあったのではないかと想像するのですが、今回のコロナ禍でゼロから企画し直す機会にもなったりですとか、変えざるを得ないということもあって変えた部分もあったのではないかと思います。プラスの側面を見たときに、どんな工夫が見られたかですとか、今後の修学旅行の在り方において新たなヒントを得られたことですとか、そういったことがもしありましたら教えてください。

直井学校教育  
企画部長

森委員御指摘のように、様々計画していたことができないというようなことになっているようです。まだ実施した学校が28校ということで、十分な聞き取りはできていませんが、今聞こえてきているところでは、例えば、狙いとか目的というものを改めて再検討する中での行動とかメニューを考えるということがされて、きちんと整理して実施ができたとか、これはうれしい誤算と言うと変ですけども、実施して受け入れてくれた宿やお店、関わってくださった方たちへの感謝というものが、子供たちの振り返りの中で多く出ていたという声が聞こえてきています。前年度どおりとか今までどおりとか、受け入れてくれて当たり前ということがそうではなくて、様々なことを改めて考えたり受け入れてくれる方たちへの感謝ということについては、次年度以降の様々な行事を考えたり、子供の学びというのを考えるときに、良いことなのかなと今は考えています。

それから、少し内容的に聞こえてきているところでは、今まではどうしても観光型というのでしょうか、見学をしたりするということが多く、もちろん文化財を見るとき、そういうものも大事なことではあるわけですけども、密を避けるということから自然体験型であったり、様々な体験にということが少し見直されてきているようです。修学旅行は友達、先生と集団で行くという良さがもちろんありますけれども、そこで何をやるかということについても、前年どおりとか今までどおりというのから、何を目的に等、少し変えるという動きのきっかけになっていて、今後実施する学校もあると思いますので、様々な情報を得ながら、良い部分についてはシェアして、より良い教育活動になるようにと考えています。

森委員

ありがとうございます。

鯉淵教育長

ほかにはいかがでしょうか。

四王天委員

実際の中止の数字を見て思ったのですが、小学校は約1割ぐらいの中止、中学校は約3割強、これが全国的に見てどうなのかとか、その辺の比較はちょっと分かりませんが、特に中学校での約3割の中止の主な理由みたいなものは何かあり

ますか。中止に至ってしまった理由です。

直井学校教育  
企画部長

実際の中止ということについては、やはり感染への不安とか、実施に向けた安全性の確保、そういうものについての理解や担保が取れないということだと思えます。前にもお話ししたかもしれませんが、学校としては様々な行事を通して子供たちに育ってほしいということが基本にありますので実施したいとは思っていますが、状況が整わないときには無理ができないという判断であると思えます。ただ、小学校に比べて中学校が多いというのは、中学校については年度末に受験といいますか、進路という部分があります。小学校でももちろんあるわけですが、高校入試であるとか様々なものが年度末にあり、行事が組みづらいということで、早い段階で中止するという形にしているところが多いのではないかと考えています。今後の状況によって、今検討しているとか実施予定という学校もありますけれども、様々な状況を見ながら各学校で、私たちも相談に乗らせていただきながら決めていくことになるのかなと思えます。

四王天委員

中止が多いかなという感じもしないでもないのですが、ぜひとも保護者の御理解と本人の御理解というところを丁寧に対応していただければと思います。以上です。

木村委員

半数以上がやっているというのはすごいと思ったのですが、宿泊を伴って実施したところ、日帰りにしたところ、中止にしたところの共通のポイントは何かあるのですか。こういうことがあるから実施なんだ、日帰りなんだ、中止なんだというところは。いかがでしょうか。

直井学校教育  
企画部長

やはり宿泊をするというのは、学校にとって、保護者にとって、子供たちにとって長い時間一つの部屋にいるということがありますので、そこでどのように感染防止対策を取って、密を避ける形でできるかということが一つのポイントになって、宿泊なのか日帰りなのかというところの判断になっていくことが多いのではないかと思います。それから、当たり前のことですが、日帰りというのは近場ということですので、電車にしるバスにしる移動距離も時間も短くなります。そういう幾つか様々な要因の中で、密を避けて、感染を避けて、何をどう学んで、体験してということを総合的に考えながら原案を練り直し、中学校の場合は特にそうだと思いますが、子供とも相談し、保護者とも相談し、理解を得ながらこの形で子供たちの学習をやっという、目的を達成していこうという落としどころの部分で、宿泊をそのままやろうとか、宿泊はやめるけれどもここに行こうということで、様々な工夫の中でこういう結果になっているのかなと。

木村委員

答えづらい質問をして申し訳ありません。検討中の学校というのは、大体いつ頃までに中止かやるかというのが分かるのですか。

直井学校教育  
企画部長

曖昧で申し訳ありませんが、9月中が30校ぐらいで、この後10月、11月が一番のピークになっていきます。これは9月末時点の調査ですので、10月については、実施なり少し変更ということがあるかもしれません。2月、3月にぐっと延期している学校もございますので、そういう学校については年明けになってもまだ検討が続くということになります。

中村委員

ありがとうございました。修学旅行は、やはり当日の楽しさだけではなくて、

それに至るまでに各教科と絡めていろいろな下調べをしたり、それからあと、いろいろな自分たちの過ごし方を企画したり、当日運営したりとか、いろいろな力が育っていく良い機会ですので、中止になった学校は多分、お子さんや保護者だけではなく、先生方もすごく残念に思っているんじゃないかと思えます。もちろん背景には様々な事情があると思うので、それぞれの学校の考えというか決定は尊重しなければいけないと思えますけれども、中止になったということで、やはり子供たちの気持ちも考えたときに、何か代わりになるようなもの考えた、あるいは考えている学校があるのかどうかということをお伺いしたいのが1点です。

それからもう一つ、爆発的ではないとはいえ、じわじわと感染する教員や子供たちもやはり増えてきている中で、心配しているようなコロナいじめのようなことは実際どうなっているのでしょうか。分かっていたら教えてください。以上です。

直井学校教育  
企画部長

修学旅行については、現地に一緒に行き一緒に生活をするということのほか、やはり歴史であったり産業であったり、人々の生活などの学習ということがありますので、そういう学習についてはやめるということはないと思えます。実際に学習発表会という形にしたり、学んだことをみんなでシェアするということは、中止の学校でも行っているように聞いています。また、楽しい、レク的な意味もありますので、そういう部分については学年行事であったりとか、本当に近くへ少し遊びに行ったりとかというようなことにやむを得ず変更する中で、子供たちの親睦とか、そういうレク的なものをするというように学校は工夫していると思えます。なので、中村委員御指摘のように、教科ごとに様々勉強するわけですが、それが全くなくなってしまうということはないと思えます。

前田人権健康  
教育部長

人権健康教育部の前田でございます。お話しいただきましたコロナウイルスに関するいじめのことでございますけれども、教育委員会事務局としましても、学校への通知や専任を通して、今般のコロナ禍の中でいじめ等がないようにという取組を進めておりますけれども、実際には6月から8月の間でも数件、そういったようなことがあったということで情報を集約しています。ただ、コロナウイルスだけではなくて、常日頃から子供たちが傷つくことがないように、ささいな案件でもしっかりと受け止めて、学校でのいじめ防止対策委員会等を開くなどして、事前のところから丁寧に指導をしているという状況でございます。引き続きこの後も丁寧に対応してまいりたいと思っております。

中村委員

今はコロナウイルスに感染するというのが珍しくないというか当たり前になりつつある中ではありますけれども、例えば「職場に出てこないで」とかいろいろなお話を伺うと、子供たちは大丈夫かなと心配していますので、ぜひ学校現場でも教育委員会でも、そこは丁寧に見ていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

鯉淵教育長

ほかにはいかがでしょうか。特になければ次の議題に移りたいと思えます。「第2の日本語支援拠点施設『鶴見ひまわり』の開設について」、所管課から御報告いたします。

直井学校教育  
企画部長

引き続き学校教育企画部長の直井でございます。外国籍等児童生徒の支援をするために、第2の日本語支援拠点施設である「鶴見ひまわり」を開設いたしましたので、御報告をさせていただきます。詳細につきましては、所管課長から御報

告させていただきます。

出川小中学校  
企画課日本語  
支援担当課長

小中学校企画課日本語支援担当課長の出川でございます。「第2の日本語支援拠点施設『鶴見ひまわり』の開設について」、御報告を申し上げます。お手元にお配りしております資料を御覧ください。お願いします。

初めに、今回「鶴見ひまわり」を開設した経緯を御説明いたします。「1 『鶴見ひまわり』開設の経緯」を御覧ください。本市では、平成29年9月に、日本語指導が必要な児童生徒の急増を踏まえ、中区に第1か所目となる日本語支援拠点施設ひまわりを開設しました。設置される中区及び隣接する南区の児童生徒を中心に、昨年度まで407名の児童生徒がプレクラスに入級しました。

開設後1年半が経過した令和元年度には、ひまわりの事業効果を検証するために、全校に対するアンケート、関係校長や関係区局管理職による検証プロジェクトを実施しました。全校アンケートでは、プレクラスを利用した場合、その支援は有効・まあまあ有効だったという回答が93.9%となりました。その一方で、対象児童生徒が在籍していても、自宅からひまわりが遠いことなど、ひまわりの場所を理由としてプレクラスを利用できなかったという回答が45.3%となりました。こうした現状を踏まえ、昨年度より第2のひまわり設置の検討を始めました。日本語指導が必要な児童生徒の市内での集住状況、主要駅からのアクセスを踏まえて、学校の空き教室を活用する形で、令和2年9月、鶴見小学校内に「鶴見ひまわり」を開設しました。

次に「2 『鶴見ひまわり』プレクラス概要」を御覧ください。プレクラスには、帰国・来日間もない児童生徒が拠点施設に通級し、学校生活により早く適応できるように集中的な日本語指導を受けるとともに、学校生活の体験を行うものです。平成29年度に中区で開設して以来、学校からのニーズなどを受け、これまでカリキュラムを少しずつ修正しながら現在の内容を作り上げてきました。「鶴見ひまわり」でも中区のひまわりで培ったノウハウを生かし、中区と同様の形態で実施しております。

指導内容につきましては、表にありますとおり、「①初期日本語指導」、「②学校生活体験」、「③体育・音楽・書写などの教科につながる、授業で使う日本語指導」となっており、初期日本語指導の授業が半分から3分の2程度となっております。通級期間は4週間で、水曜日・木曜日・金曜日の週に3日、児童生徒が通級してまいります。基本的なクラス編成も中区のひまわりと同様で、小学校低学年のはな組、小学校高学年のみどり組、中学校のそら組となっております。指導者は校長経験の統括指導者1名と、各クラスでは、教員免許を持ち、学校での指導経験を有するプレクラス指導員と、日本語指導の資格を有する日本語講師が2名1組でそれぞれのクラスを担当します。なお、表の下に米印で記載しておりますが、「鶴見ひまわり」でも中区のひまわりと同様に、来日間もない保護者及び児童生徒に対して、日本の学校の生活などを5か国語で説明する「学校ガイドダンス」を毎週火曜日に実施しております。

次に「3 第1期プレクラスの様子」を御覧ください。「鶴見ひまわり」の第1期のプレクラスは、9月2日から9月25日までの間で実施しました。例年ですと、この時期は一年のうちで海外から編入する児童生徒が一番多い時期であります。今年度は新型コロナウイルスの影響から児童生徒がとても少なく、今回の通級児童生徒は8名で、出身国は中国、イエメン、フィリピン、ニュージーランドでした。少ない人数ではありますが、入級した児童生徒は4週間の中で精いっぱい学習を行っていました。

資料の一番下に「鶴見ひまわり」の様子が分かる写真を3枚載せておりますの

で、御覧ください。一番左側の写真でございますが、これは授業で使う日本語の学習の様子で、このときの授業は書写です。筆、墨、文鎮など、書写の授業の独特な日本語を勉強するとともに、生徒は実際に筆を使って自分の名前や学校名などを片仮名や漢字で書く練習をしました。また併せて、細い、太いといった授業で使う日本語の勉強も行いました。次に、中央の写真を御覧ください。これは、中休みの鶴見小学校の児童との交流の様子です。「鶴見ひまわり」は鶴見小学校の中にあり、空き教室を利用して実施しております。時間割も同じにしているため、中休みや昼休みには鶴見小学校の児童が遊びに来てくれます。こうした交流は中区のひまわりにはなかった形態であり、プレクラスの児童生徒とともに鶴見小学校の児童にとっても双方に良い効果をもたらしているのではないかと考えます。最後に、右側の写真を御覧ください。こちらは給食体験、給食を通じた交流の様子です。こちらも鶴見小学校との連携によって行っているものとなりますが、プレクラスに通う児童も最後の1週間は鶴見小学校の教室と一緒に給食を食べる取組を実施してまいります。現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、児童も喫食中は全員が前を向いて話をせず食べる形ですが、出身国によっては学校の昼食の文化も異なりますので、プレクラスの指導員が付き添う中で給食を体験できることは、児童の早期適応への効果が期待されます。

「鶴見ひまわり」での取組は開始してまだ1か月程度ですが、まだまだ手探りの部分があります。これからも学校や学校の関係者からの意見を踏まえながら実践していきたいと考えております。頑張っています。どうぞよろしくお願いいたします。報告は以上でございます。

鯉淵教育長

説明が終了しましたが、何か御意見・御質問等がございますか。

中村委員

ありがとうございました。御説明にもありましたけれども、やはり現実的に中区に通わせられないとおっしゃっている学校の先生方もいらっしゃいましたので、また新たに拠点ができることは本当によかったなと思います。先日は訪問させていただいてありがとうございました。本当に子供たちがすごい伸びのびと安心して授業を受けている様子が見えましたし、中にはおちゃめな様子も見えたりして、信頼して安心しているんだなという感じがうかがえました。また、この写真にもあるように、休み時間になりましたらほかの子供たちがにぎやかに入ってきて一緒にゲームをしたりとか、本当に鶴見小学校の中にできたという意義をすごく感じることができました。また、先生方もとても丁寧に自作の教材等を使われながら、子供に合わせて丁寧に指導されている様子も見せていただいてありがとうございました。これで中区と鶴見区にできたということですがけれども、4方面の教育事務所ごとに考えるとまだまだない地域のほうが多いわけで、そういうことを考えると、他地域の拠点施設の開設のニーズというのは、現実的にどんなものなのでしょうか、教えてください。

出川小中学校  
企画課日本語  
支援担当課長

横浜市は先ほど言いましたように、年々日本語指導の必要な子供たちが急増している状態にあります。特に集中している地域、一番最初に中区のひまわりをつくらせていただきました。そして、次に集住している地域として、鶴見区のひまわりと。それ以外に北部方面、西部方面にも集住している地域がございます。また、それ以外に散在も起きている地域があります。そういう先生方からも非常にひまわりの必要性を訴える御要望がたくさん聞こえてまいります。「鶴見ひまわり」をしっかり検証して、今後第3、第4のひまわりに向けての検討をさせていただければと考えております。よろしく申し上げます。

中村委員

ありがとうございました。やはりニーズがあるということは、これからつくっていかねばならない必要性というのをすごく感じます。それと同時に、この間お邪魔したときに御説明いただいたのですが、単にひまわりの中にこもって指導するというのではなく、国際理解教室等々が各学校に設置されているところに、例えば共通教材を作って配布したりとか、あるいはひまわりの先生方が巡回していろいろ支援をなさっているというお話を聞いて、それが全体的な底上げにつながっていくと思います。ですから、そういう意味でもこの活動をぜひ広げていただきたいと思いますし、その背景になっているのが会計年度任用職員でしたっけ、20時間から29時間に増えたという、先生方の勤務体系が変わったことも後押しになっていることを伺いましたので、様々な意味で、拠点を一つつくればいいということではなくて、それに付随した様々なことを考えつつ、ぜひほかの地域にもこれをつくっていただくようお願いしたいと思います。以上です。

鯉淵教育長

ほかにいかがでしょうか。

森委員

先日は見学に行かせていただきましてありがとうございます。そのときにもいろいろと御説明を頂きまして、今、日本語指導が必要な児童生徒が急増というお話がありました。4年前は8,400人ぐらいだったのが令和2年は1万1,000人と4,000人増になっているということですか、日本語の支援が必要な児童に限っても、4年前は1,670人だったのが倍増までいかなくとも2,900人になっているということでしたので、4年間という短期間でほぼ倍近く増えているというデータを改めて見ながら、それに対しての支援が今どれだけできているのかなということも考えさせられる時間でした。その中で、第2の拠点として「鶴見ひまわり」ができたことの意義は大変大きいと、見学しながら思いました。実際に5人以上日本語指導が必要な子供が学校にいる場合は国際教室が設置されるということでしたけれども、今年度設置された学校は、小学校においては26校、中学校においては7校ということで、児童の増え方に対して設置校の増え方というのは比較的緩やかなのかなと思いました。その背景としては5人以下、5人に満たないけれども学校に1人や2人、日本語指導が必要な児童がたくさんいるということの表れでもあるなどお聞きしながら感じました。そういった中で拠点が三つ四つと増えても、先ほど中村委員からもありましたけれども、どうやって1、2、3、4人の児童がいる学校に、巡回型であったりですか指導や支援をしていけるかということを引き続き考えていかねばならないと感じております。そのあたりで今できていること、できていないと思われることを、後ほどお聞きできたらと思っています。

支援の必要性ということに加えて、お伺いして思ったことが一つございます。当日伺う中で非常に興味深いお話をお聞きしました。例えば中国から来たお子さんであれば、手を挙げてくださいと言うと肘を机につけたまま手を挙げるというのが中国での文化。日本では肘を机につけないで挙げるんだよ、中国では肘をつけるんだねという話があって、日本では肘をつけないで手を挙げてねと言いつつ、日本のみんなにも中国では肘をつけて手を挙げるらしいよと伝える。そういったルールが海外ではある、そういった文化もあるんだということを同時に伝えている。「今日はそういうやり方でもやってみようか」なんてやっているんだよという話も聞きました。そうやって、日本のルールは世界のルールではない、いろいろな国にはいろいろなそれぞれのルールがあるんだということを横浜市にいる児童に伝える機会にもなっているということ、非常にそういった互いの文化を

知るという場にもしているということをお聞きして、そういった発想、支援だけではなくて、その子の持っている力であったり文化であったりということ、みんなで共有するという視点がすごく大事なと感じました。私自身、小学校4年生のときに渡米して、日本人が1人しかいない学校に行きましたけれども、そのときに英語ができるできない以外の観点で自分を見てもらえる、引き出してもらえる先生に出会えたことは非常に私自身も力になりましたので、そういった指導方法だけではない発想の在り方みたいなのも、多くの先生方と共有できていったらいいなと感じました。

すみません、長くなりましたが、質問のところをお願いします。

出川小中学校  
企画課日本語  
支援担当課長

ありがとうございます。森委員のおっしゃったとおり、今後もまさに共生、一人ひとりを大切に、その文化を伝えていくことを目指していきたいと思っております。それから、1人から4人までの子供たちへの支援になりますが、先ほどお話ししましたように、横浜市の中では集中もあれば散在も増えてきたと。その子供たちを大切にしていけないといけないと考えています。そのために、まず日本語教室という施設がありますが、初期の日本語を教える日本語講師が派遣されている事業がございます。今年度はコロナウイルスの影響の中でなかなか支援に入りにくかったので、回数を増やしながら支援をさせていただいております。

二つ目は、鶴見及び中区のひまわりで、先生方の教材という形で独自の資料「ひまわり練習帳」というものを作らせていただきました。それがベースになって、この3年間ですか、ひまわりの中で先生方が培ったものをネット上に発信させていただいて、御自由にお使いいただけるように、それぞれの国際教室の支援という形で考えております。

三つ目は、中村委員が先ほどおっしゃったように、今年度は会計年度任用職員という形で、週3回から4回の勤務に勤務体系を変えさせていただきました。その1日を使ってこの10月から、まず近隣の小中学校の国際教室に入らせていただきながら、ひまわりで培ったノウハウをそれぞれの学校に伝達、情報発信をする。また、お互いに情報交換をしながら困っていることを共有する。そういう仕組みをつくらせていただきました。そういう形で、これから先も支援をしていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

鯉淵教育長

ほかにいかがでしょうか。

四王天委員

先日は私も見学させていただきましてありがとうございます。中村委員、森委員のおっしゃるとおりのすばらしい取組だなと。日本社会に早くなじむためにということで、とてもよく考えられたシステムだと思います。この仕組みとはちょっと別に、逆の視点からなのですが、受入れはこのような形で、例えば今度、2か月後、3か月後に海外に行ってしまうということが決まっている生徒さんに対して何か逆のひまわりのような、こちらが事前に予習的に現地ですぐ溶け込めるような教えをしてあげられるというシステムにはならないかなという。受入れはいいのですが、今度は送り出すというか、市民に対して海外ですぐなじめるようなシステムも逆に考えられるのかなと思いました。思いつきで申し訳ないのですが、もしこんな取組もできたらいいのかなと思いました。感想です。

鯉淵教育長

それはなかなかできていませんよね。

四王天委員

でも、こうやって海外から来る人に対してすごく優しい対応をしてあげている

のだから、海外に出ていく人に対しても現地で戸惑わないようにという優しい気持ちを持ち横浜市は持ってほしいなど。国際都市としてそこまでできたら素晴らしいなどと思って、これの発展系みたいなイメージが浮かんだので、お話しさせていただきました。

鯉淵教育長 御意見ということで。

四王天委員 はい。

大場委員 「鶴見ひまわり」の開設、いろいろお疲れさまでした。私は前回行けなかったの、念のための確認です。こうやって横浜市内で二つ目の拠点施設ができましたが、横浜市内に2か所、こういう拠点施設ができたという事例というのはそんなに多くないだろうと思いますけれども、お答えになれるデータがあったら一つ教えていただきたいと思います。それから、今回こうやって資料を拝見していて、鶴見小学校の中にひまわりを開設して、鶴見小学校に通う子供たちとの交流もできるし、給食体験もできるしということで、すごくきめ細かい対応をいただいています。たまたま第1期のプレクラスに見えた8人の皆さんの住所要件というのは、やはり鶴見区近辺が多いのか、それとも北部方面なのか。私が中区のひまわりに行ったときは、たしか泉区とか瀬谷区とかの方面からも通ってこられていて、行き帰りが大変だなという感じを持ったのですが、まず住所要件も含めて教えていただければと思います。

出川小中学校  
企画課日本語  
支援担当課長 拠点となるようなところがどのくらいあるのかということなのですが、実は全国を探してもここまでの規模でひまわりを二つ持っているところはないと思います。また、拠点校という学校やある地域を中心に支援に入っていくというような状況が一般的です。単独の施設というのは、なかなか全国でも少ないと考えています。2か所というのは横浜市だけではないかと思っています。

二つ目ですけれども、8人の子供たちの内訳は、神奈川区が2名、鶴見区が6名です。しかも近隣で通える子供たちになっていますので、そういうところからも通えるようになったということで、すごく校長先生方からも喜びの言葉を頂きました。

大場委員 ありがとうございます。神奈川区、鶴見区に住んでいる皆さんにとっては非常に身近な拠点施設になってもらっているのだらうと思います。ここからは感想だけですが、さっき申し上げたとおり、鶴見小学校とのいろいろな交流もできるし、鶴見小学校の子供たちにとっても日本語支援を必要とする子供たちがいる、存在をまずきちんと知ることにもつながるだろうし、ぜひこの交流のところを大きく武器として使っていただきたいなと思います。あとは、授業で使う日本語の学習で、たまたま書写の部分で、日本の子供だって日本に長年住んでいても、墨とか文鎮という字は簡単に書けないし、これをいきなり教えるのは、私はすごく難しいノルマを課しているような気がしますが、子供たちの感じ方がどうか私は分からないので私の勝手な意見ですけれども、そういう意味ではぜひ一般のとうか鶴見小学校との交流をベースにしながら、いろいろ活動展開をしていただけるとうれしいなと思いました。よろしくお願いします。

鯉淵教育長 一応念のために規模感というか、鶴見ひまわりは何人ぐらいまで対応できるのかということ、ひまわりだったら規模感が全然違うのではないかと思うのですけ

れども、どんな感じなのか説明してください。

出川小中学校  
企画課日本語  
支援担当課長 規模の部分ですが、一応想定範囲では各クラス20名。最大限60名まで入れたい  
と思っているのですが、ただ、20名ずつの子供たちが入るといろいろな環境の中  
でなかなか難しいところがありますが、最大限は両方とも60名と踏んでいます。  
ひまわり60名、鶴見ひまわり60名です。

鯉渕教育長 「鶴見ひまわり」でも3部屋プラスアルファぐらいの教室はあるという。

出川小中学校  
企画課日本語  
支援担当課長 はい。職員室1教室とそれぞれの教室が3教室、都合4教室をお借りして運営  
しております。ですから、一つの教室に20名ずつ最大限入ることが可能であると  
考えております。

森委員 先生の数は今のままということでしょうか。

出川小中学校  
企画課日本語  
支援担当課長 一応今のまま20名を2人で見るというような形で考えています。

鯉渕教育長 よろしいでしょうか。

四王天委員 先生に関してですが、先日見学したときは女性の先生しかいらっしやらなかつ  
たように見えました。例えばいろいろな面で同性でないともずい場面も幾つかあ  
ると思いますが、男性教諭もいらっしやるのですか。

出川小中学校  
企画課日本語  
支援担当課長 担当している教員6名に関しては女性なのですが、統括指導者、責任者は一応  
校長先生で男性になりますので、その方にそういう部分も補っていただくように  
考えております。

四王天委員 でも、男性教諭も必要かなと思います。

出川小中学校  
企画課日本語  
支援担当課長 応募していただけた中で選抜していきたいと思っております。ありがとうございます  
います。

鯉渕教育長 よろしいでしょうか。  
以上で公開案件の報告が終了いたしました。事務局から報告をお願いします。

齊藤課長 次回の教育委員会定例会は、11月6日金曜日の午前10時から開催する予定で  
す。また、次回の教育委員会臨時会は、11月20日金曜日の午前10時から開催する  
予定です。

鯉渕教育長 皆様、よろしいでしょうか。次回の教育委員会定例会は、11月6日金曜日の午  
前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会臨時会は、11月20日金曜  
日の午前10時から開催する予定です。別途、通知しますので御確認ください。  
以上をもちまして、本日の教育委員会臨時会を閉会といたします。傍聴・報道  
機関の方は御退席願います。また、関係部長以外の方も退席してください。な

お、教育委員の皆様には連絡事項がございますので、このままお待ちください。

[閉会時刻：午前10時50分]